



新潟の水辺 だより

Vol.31

《新潟の水辺だより》 ●編集発行・新潟の水辺を考える会 ●発行日・1995年4月15日 Vol.31
●〒950 新潟市大学南1丁目7821-5 (株)グリーンシグマ内 Phone025-263-2733 Fax025-263-1134

TOPICS

「よみがえれ通船川」

新潟の水辺を考える会世話人
相楽 治

◆研究助成企画が入選!

当会が企画申請した「市民参加による身近な水辺回廊の再生手法の研究」副題：都市河川回廊・通船川を事例として一が第1回の北陸地域の活性化に関する研究助成制度(北陸建設弘済会主催の10選(68件応募))に入りました。100万(総額600万)を頂いて約1年で研究成果をまとめなければならぬので会員や市民、大勢の参加を期待します。研究スケジュールと市民参加の研究体制をつくりましますので少しでも野次馬的にも参加して下さい。

◆研究の概要

信濃川と阿賀野川を結ぶ通船川は私たち市民にとって身近な水辺である。その川が瀕死ともいえる状況にある。その川の再生を川本来に備える機能や自然を市民的な目で追ったものも含めて調査し、類似例を研究しながら川とその周辺環境の再生像をさぐる。沿川の住民や企業、商店街の人々の休息や交流やそこに棲む生き物にはどんな環境が必要なのか。さらに再生には市民・専門家・企業・行政等どんな参画手法があるのかに研究課題を集約します。

◆「つなぎ」参加「公開」の川へ

1. 身近な水辺の「つなぎ」空間としての再生を図る。
2. 地域と水辺との関わりを地域住民・市民・専門家など広範な人々の「参加と公

開」の手法で検討し、それを水辺の再生手法として明らかにする。の2つを研究目的にあげました。通船川のもつ、つなぎの役割として魚、虫、鳥などの生き物をつなぎ、下流と上流をつなぎ、水辺と地域の人をつなぎ、地域の人と人をつなぎ、産業としての川と海をつなぎが見えます。しかし、排水、治水、産業水としての機能化装置化が進み、地域の人々と川との関わりが希薄となってきました。星島会員のいうように釣人と川に思いのある人だけが辛うじてつながりをもっています。水都新潟の水辺をつたって移動していたシンボルとして船の通る川、通船川だったとすれば船がつなぎのキーワードだったのでしょうか。

◆川づくりに住民は参加できますか?

これは宮城の水辺を考える会が水環境ネット東北のフォーラムで提起した課題ですが、大いに議論が沸いたといえます。(東北水環境交流会の報告書が事務局に寄贈されています)通船川の再生研究では住民の参加と公開をどのような考え方、やり方(舞台、発表、討論、記録、PR)が良いのかを探ることにあります。案としては①2カ月に一度は市民や会員と一緒に川歩き(川-ウチン)をする。できれば初対面の人々が交流できるように食やゲームを加えたい。②川づくりに関わった技術者や企画者、川に思いのある住民、川を調査した専門家などから現在の川にある問題点や眠っている宝物(自然、景、物、建物、場所、事、人、技、味、伝統、風習、祭、歴史、文化、仕組み、組織、)を発表してもらう。③地域の住民、企業、商店、団体、公民館、

土木事務所、土地改良区、都市計画や建築、教育、福祉などの担当課、大学やプランナーやデザイナーなど多様な見方、利害をもった人々の参加によるトコトン討論。④立場を替えて、利害を超えて川への夢物語とあるべき姿を論じてもらい、絵の巧い人は絵を、歌の巧い人は歌を、一句ひねる人は一句などイメージを産み出してみる。⑤地域の住民だけでなく地域外の子供、女性、老人から外国人まで多くの人々の理解を得られるような再生イメージ、再生メッセージにまとめてPRする案を検討します。



通船川に集うコガモ達

◆通船川の再生ポイントは?

通船川の再生は都市の川としての再生であるから当然のことだが、川と地域とコミュニティの再生が必要になります。その時、地域住民-企業・商店-行政-域外の市民・専門家のパートナーシップによる参加協力関係が生れるかが最初の大きな課題であると思われます。本研究のねらいはそこにあります。それが共通なものとなって初めて仕組みや組織、事業、基金等へ展開する。多くの人々の参加と支援とご批判を期待しています。

水辺の情報

通船川復旧物語その1—通船川インタビュー
～高橋 良穂氏（元新潟土木事務所工務第3課長）大いに語る～

高橋氏は新潟地震直後の災害復旧担当課長に指名され地震後の通船川の復旧に尽力された功労者で、公にできない利害の間に立ってかなりご苦労なさった方だと思われます。しかし、そんな素振りもみせず淡々と通船川復旧の経過とそこに隠されたドラマを語ってくれました。

■その日は戦争が始まったというデマが飛んだそうなの！？

M7.8の地震で堤防は切れチューリップ畑などの多い0m地帯は湖のようになり川の形が分からないほどであった。北側海岸部の製油所からは猛烈な黒煙があがりそれを見た人がまるで爆撃を受けたようだと言ったのがその後戦争が始まったというデマになったのでは？方々で家は傾き家屋浸水地域も多く人々は屋根に上って救助を待った。新任の高橋課長は水の引かない通船川を見て元通りに堤防を築いてもまた同じことが起きる。「復旧という枠組みはあるが工法を変えて根本的に川を変えよう。災害復旧助成事業という看板だが内容は新しい川づくりだ。」と思ったそうです。

■通船川復旧構想のポイント

- 川の周辺(堤内)の排水を解決。
- 貯木場としての河川利用の維持。
- そのために材木を引く船の通れる水深を確保し、水位を-1～2m下げ(低水路方式)、開門(水位の差

通船川ウォッチング

1994年2月26日通船川第二貯木場でバードウォッチングを行った。やはり、汚くて有名な通船川とあって私自身も最初は気乗りがしなかったためか、参加者は全く初めての人を含めて15人くらい。

じっくり入門して頂くにはちょうど良い人数と自分に言い聞かせ、気を取り直してじっくり貯木場を見はじめると、いるいるこんなところにも鳥たちが。確認されたのはカイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、セグロカモメ、カモメ、ユリカモメ、トビ、ムクドリ、スズメ、ハシブトガラス。ほとんどの鳥たちが餌を探っているか休んでいた。

中でもカワウやアオサギのように大きな鳥が筏の上

- を調整する運河のゲート施設)と排水機場の設置。
- 鳥屋野湯の排水を栗の木川に流さず直接信濃川に放流。(親松排水路と排水機場)
- これらを可能にする鋼矢板護岸工法の導入。災害復旧助成事業費圧縮のため軽量鋼矢板を使用。これらは農地部、北越製紙などの協力で具体的な事業化が進んだ。が、幾つかの難問もあった。
- 用地の問題—ある企業へは100回以上通ったという。
- 沈木の問題—矢板を打つと沈んでいた木材に当りその処分問題があった。
- 開門の導入—セクター方式を導入するまで研究や視察を繰り返した。



昭和42年秋通船川山の下開門を上流側(東)上空から撮影

■その2の予告

県議会では傷んでいる通船川の護岸補修と水質改善がとりあげられ、市の構想では暗渠緑道化も案として検討されたとか。これからの再生川づくりで何が課題となるかのインタビューレポート、乞うご期待！！インタビューアの基礎知識不足で十二分な取材になっていませんのでご勘弁を。通船川復旧物語その2で骨太にします。

通船川取材班 相楽・森本・高橋



アオサギ

で休んでいるのを望遠鏡でご案内すると、大の大人が望遠鏡を覗くのを楽しみに、順番待ちしてわくわくしいらした。くっきり見える鳥たちの生態に、参加者の皆さんが心を動かされていた。

高橋 正良

四川省奥地紀行 その4

成都に戻る途中で、ほんの少し都江堰に立ち寄りました。都江堰というのは、約2,300年前に工事が行われた堰が観光地になっている場所で、素晴らしいことに、この堰は現在でも機能しています。

岷江は都江堰によって内江と外江に分けられました。外江は内陸部の農地にかんがい用水として引かれるようになり、現在中国一の野菜生産量を誇る成都の農地をつくりだしました。

都江堰はかなり大規模なもので、大した機械もなかった2,300年前の土木工事のすごさに、ただただ圧倒され、中国の歴史の重みや大きさに打ちのめされてしまいました。岩に穴を掘り、その中で火を燃やし、水があたることによって、岩を砕いていたということで、工事を完了するのに、一体どのくらいの年月と人力が費やされたのかと思うと、途方にくれてしまいます。時代の「権力」の強大さがなせた工事とも言えるかもしれませんが、20世紀の現代の工事と比べても、その質や技術とも見劣りしない工事だと思います。

実際に、現在日本で行われている大規模な工事の意味を考えた場合、何のための誰のための工事なのかという部分が、あまりにも曖昧なものもあり、工事の質

のことについて考えさせられます。

今回の旅では、中国というあまりにも広大な国にほんの少し触れただけでしたが、魅せつけられる部分もかなりありました。上海では、人の多さ、購買熱の高さ、中国人のパワーに当てつけられ、青城山のその辺の道では、日本の風景のように慣れ親しめる空気を感じ、こんなに顔が似ている人達と言葉でコミュニケーションできず、欧米人の方が英語という言葉を使ってコミュニケーションできてしまうことの矛盾を実感し、中国式のトイレにも慣れ、今の日本は、あまりにも清潔すぎるのではないかと思ったり、一緒に回っていただいた中国の人達の基本的なたくましさを力強くうれしく感じ、思い出の多いツアーとなりました。他にも環境教育のシンポジウムなどがありました。水辺だよりも、このような好き勝手な文章を書かせてもらえたことを感謝しています。少しでも、この旅の気分をお伝えすることができたでしょうか。そうできたならうれしく思います。

八木 栄子

都江堰游览图

Grand Map of Dujiangyan Irrigation Project



水中の杭

土中に打たれた杭は、地際の部分が一番腐りやすいということは、経験的に良く知られた事実である。これは木を腐らせる腐朽菌の活動がこの部分で一番活発なことを示している。

このような経験から、水中に打ち込まれた杭も水際が早く腐るといわれてきた。

が、どうもこちらの方は「迷信」と言えそうだ。古い水制工や詰め杭を調べてみると、一番腐食の進んでいるのは杭の上部なのである。

多自然型川づくりで木材の使用が多くなってきているが、木の腐食の性質をよく理解して対処したいものである。 石月 升



夢のある話から始めましょう。
題して「最上のホテルは湖畔に存り」

私の家庭は年に数回、湖畔でキャンプをします。その度に、楽しく良い思い出が出来ます。連泊するほど素晴らしい所はそう有りませんが、昨年行った北海道一屈斜路湖一和琴半島のキャンプ場は、三星サイトといえるでしょう。湖畔に到着。いつものように全員でテントとロープを張り、カヌーとカヤック、自転車にベッドと大荷物を運ぶ。お茶を飲みながら他のテントはどんなかな？と、眺めると遠くにシー・カヤックが一艇。そくあちらから挨拶に。その人は、北海道出身で石垣島でサッポロラーメン店をやっており、夏は、道東でカヌーをしながら過ごすのが恒例という泰さん。後日、厚岸でも、カヌーを共にすることになるのですが、自動車を持たない稀少なカヤッカーです。



翌日は、屈斜路湖の温泉めぐり。湖畔に連らなる温泉群。所ジョージのCMはここでこうやった、などと露天風呂の梯子。“暖かい” “ぬるい” “藻だ

らけ” 様々な風呂へ脱いで着て、着ては脱ぐ。5つ、6つと回るうちにだんだんやけになってきた。—全部入ってやる！—

2日目の夜は、ライダーの一人用のテントも多く、混み合っていた。ランタンの燈下、泰さんと酒を飲みながら、カヌーや沖繩の話をしていると、夜8時頃、突然凄まじい一団が隣にテントを4つ立て、あつという間に食事をして、あつという間に寝てしまった。あつ気にとられてしまった。素晴らしい、子供からお年寄り、そして2匹のハスキーまで何というチームワークの良さ。高価なテント、火を使わない食事・・・学ぶ点が多い。

3日目にしてようやく晴天。このキャンプ場の本領発揮だ。荒めの白い砂浜は、ゆるい弧を描き、片翼は原始の和琴半島が突き出し、反対翼は湖に影を落とす大木の原生林へと飲み込まれてゆく。正面に無人島を遠くに眺め、そのはるか向こうには美幌峠の山々が美しい。静かな湖畔にカヌーで漕ぎ出す。湖畔浴場を遠巻にして、半島の先端に近付くにつれ別天地を想像をさせてゆく。緑の精の住む深きこと巨大な角張った岩々の雄大な絶壁。その上には何人も立ち入らせぬカムイの森、そして鳥達の大合唱。地の果てに来たような隔世感が襲ってくる。観光地の中の聖域。そして、時折聞いたことのない不思議な声が森に響く。ピーポーそして、低くピーポー。暫くしてピーポーピーポー、まるで映画の「未知との遭遇」。何か鳥の掛け合いに違いないだろうが、私達にはカムイの神々の秘そやかな話し声にしか思えてならなかった。そして、今でもそう思えてならない。

高橋 裕雄

ナゴヤサナエ

黒と黄色を基調とした体長5cm程の中型のトンボ。日本特産種で産地は局地的。

幼虫は河口部のかなり水深の深いところにも棲むらしく、羽化するときは川の中心部から岸に向かって、尻から水をジェット噴射させて泳ぎ付くという。(残念ながら見たことはない)

羽化後は、かなり上流まで生活範囲を広げられるらしいが、よく解っていない。

現在、信濃川の河口部で羽化していることが確認されている。

両岸とも「やすらぎ堤」にしてしまうと、ナ



ゴヤサナエの「やすらぐ」場所がなくなってしまう。 石月 升

魚類—その2 ナマズ

このところ各地で大地震が頻発し、新潟県北部でもM6の直下型地震がおきた。昔は地下で暴れ回る大ナマズが原因といわれたが、むしろこの魚は地震の前兆を感じとって騒ぐのだという。

ナマズのトレードマークは大きな口と4本のヒゲ、視力は良くないが嗅覚と触覚で餌を探し、自分の体の半分ぐらいの魚だったら丸飲みにしてしまう大食漢だ。池や流れの緩やかな下流の魚と思われがちだが、中流域の淵にも住んでいて、夜間には餌を求めてアユが泳ぐ早瀬にまで出てくるものが



ナマズ

ある。白身で味はかなり淡泊で、ウナギよりうまいという隠れファンもいる。

井上 信夫

植物資料館の設立を

新潟市には、10年前元南高校教諭池上 義信さんによって寄贈された37万点にも及ぶ植物標本があることを御存知でしょうか。しかし、保存の状態が非常に悪いため、虫に食われるなど標本の傷みが激しくなっています。また、未整理の標本も多く、土日曜は閉館しているため標本を活用したくてもできない状況にあります。そこで、この貴重な標本を良好な状態で保存し一般に公開できるようにしようと「植物資料館整備促進の会」が結成されました。博物館法に基づいた資料館(注1,2)の設立を目指して活動しています。

(注1)学芸員のいない資料館は、医者が1人もいない病院のようなものです。標本を安心して保存・活用するためには、標本の管理・調査・説明などができるプロが必要です。

(注2)博物館には「標本・資料などの収集・保存・調査・研究」及び「社会教育」という機能があります。すなわち、標本、資料を集め、それを利用して社会教育や研究を行うのが博物館です。ところが、「社会教育」という面ばかりが強調されるため、展示などに必要な最小限の標本・資料さえあればよいというケチな考えが横行しています。

笹原 治

桜に思う

東地区公民館 梶 瑤子

三寒四温といわれるように、春は寒暖を繰り返しながらゆっくりとやってきます。本当の春が訪れるのは4月の声をきいてからでしょうか。今は梅がようやくほころび始めましたが、今朝のニュースでは桜前線が北上を始めたと報道されました。あつという間に全国津々浦々桜の季節となるでしょう。

自然の変化は毎年繰り返されているものの、同じ花でも環境、条件が異なれば開花の時期も違うようです。

桜といえば「ソメイヨシノ」が一番多く見られますが、これは明治以後の植林によるものだそうです。咲いてすぐ散る「ソメイヨシノ」は日本人の心菌切れの良い江戸っ子の気質等に例えられ、愛されてきたようです。先日(3/21)東京、上野で会合があって上野公園の夜桜を見る機会を得、久しぶりにゆっくりと花見をしてきました。

「ソメイヨシノ」は優雅に咲き誇り、ほんぼりに照らされてより美しく春を告げていました。桜は、春の到来を一番早く私たちに伝え、心豊かにしてくれます。東京のネオンの中にあっても美しさは変わりませんでした。

今でこそ桜といえば「ソメイヨシノ」ですが、本居宣長がやまとこころと喩えた桜は、咲いてすぐ散るソメイヨシノではなく、じっくり花をつける山桜のほうだといいます。

私も昨年5月の連休の一日、大峰山(加治川村)の山桜を観て以来、この花のすばらしさ、美しさに心を打たれました。おまけに猿の親子に出会って感激!

大峰山の山桜の見頃は里に八重桜が咲いた時だそうですので、水辺の会の皆さ

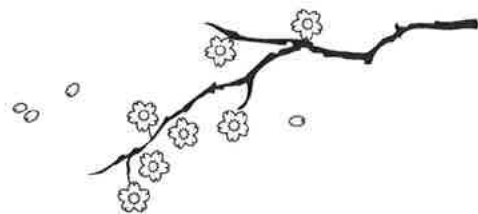
んもこれを目安として一度鑑賞してみてください。登る山道も緩やかですし、途中の展望台付近からの眺望は日本画を見るようです。歌の好きな人は一句、写真の好きな人はパチリとシャッターを・・・とそれぞれに楽しめます。

日本人の心の中には、脈々と桜の花を一つの文化として受け継いで守ってきたような気がします。又、今だにお花見と称して仲間とドンちゃん騒ぎが許されているのも桜の花だからであろうと想像されます。

今、人と自然との関係が変わりつつあることに危機感を感じます。自然の仕組みや生態系に異変が起きているという実態を見ると、自然環境問題はみんなで考えて行かねばならない問題です。目の前の経済を優先させて大気や水、川、森や人の心を痛めつけてはいないでしょうか。

桜の花が美しく咲き続けるための自然環境のあり方は、私たちの課題でもあるのです。自然と人間との関係を永遠に変えさせないよう自然を大切にしなければ・・・

そのために身近な環境問題を考える多くの仲間と手をつないでいきませんか。



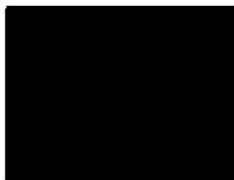
会員紹介

MEMBER'S

S



長谷川 久彦



建築や土木のパーズを描いていまして、近年特にウォーターフロント関係の需要が多く、そんなわけで興味がわきまして入会しました。仕事を離れても、最近水辺の風景画を描いています。



砂沢 薫子



神戸から転勤してきたのが1年前。とうとうと流れる阿賀野川と、豊富な自然に感激しました。自然を守るには、その存在と大切さを広く知ってもらうことと考えています。仕事に追われていますが、よろしくお願ひします。



4月16日より
阿部 米美
(旧姓川口)



生まれ育ちは、荒川の河口ですが、今春、この川をさかのぼって、上流にある山形県小国町のほうへ嫁いできました。

新緑のブナ林でみなさんをお待ちしています。遊びに来てください。



梶 瑤子

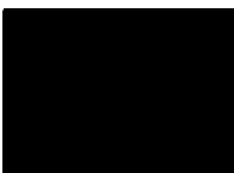


公民館に勤務して18年間、この間、自然環境をテーマに市民と共に学んできました。自然を愛することは人間を愛することです。

「自然親照」自然を確かな目でみれる人間になりたいです。



長井 一義

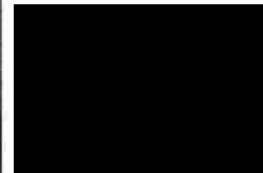


昨年の7周年記念イベントで入会手続きをしてからお世話になっています。

小学生の頃は、近くの川や田圃で遊んだの……子供たちに美しい水辺を残してやりたいと思っています。水循環に興味があります。



松野 直一



今は道路になっている「栗の木川」の川端で生まれ育ちました。幼少の頃、早春に鳥屋野湯からの清流に白魚がつぎつぎと群れをなしてやってくるのを、夢中になって追っかけた風景を懐かしく思い出します。自然との共生

EVENT & BOOKS

イベント情報

1 東洋古来の癒しの技・指圧講習会

日時 ● 1995年4月23日(日) 午前10:00～午後4:30
 場所 ● 海の家「ちどり」(小針浜)
 内容 ● 指圧講習会 参加費4,000円(お昼ご飯500円申込必要)
 主催: よろず医療研究会 海の家企画(025-265-3978)

3 小木町海洋・海岸体験学習研修会

日時 ● 1995年6月17日(土)～6月18日(日) 午前6:00
 場所 ● 小木町ダイビングセンター
 内容 ● 体験ダイビング・定置網見学
 主催: 長野県水辺環境保全研究会 (0262-28-5982)

4 第11回水郷水都全国会議横浜大会

日時 ● 1995年7月28日(金)～7月30日(日)
 場所 ● 横浜市
 内容 ● エクシジョン・基調講演・分科会・総会・交流会
 主催: 横浜大会実行委員会

2 第11回合唱団ユートライ定期演奏会

日時 ● 1995年6月4日(日)午後2:00 (1:30開場)
 場所 ● 新潟市音楽文化会館
 内容 ● ・モンテヴェルディ作品集
 黒人霊歌「方舟」 木下 牧子
 ・宮崎 駿の世界
 ～となりのトトロ・天空の城ラピュタ・
 風の谷のナウシカより
 入場料 大人¥1,000- 小人¥600-
 ※水辺の会の会員が歌っています。
 (025-265-3637) 川瀬まで

5 第6回世界湖沼会議霞ヶ浦'95

日時 ● 1995年10月23日(月)～10月27日(金)
 場所 ● 筑波大学会館・土浦市民会館
 内容 ● 記念講演・基調講演・分科会・霞ヶ浦セッション
 (0292-24-6905)

環境セミナー『通船川ウォッチング』

—通船川の魚と水生昆虫—

日時 ● 1995年4月23日(日) 午前9:00～
 場所 ● 東地区公民館玄関前集合
 内容 ● 通船川ウォッチング 案内人 井上 信夫
 定員25人
 参加費500円
 主催者 ● 東地区公民館、新潟の水辺を考える会
 電話番号 ● 025-241-4119

書籍情報

1 川がつくった川、人がつくった川



著者 ● 大熊 孝
 出版社 ● ポプラ社 10代の教養図書
 ● (定価1,600円 税込)
 内容 ● 日本の川は、三面をコンクリートで囲まれ、川というより、ただの排水路になってしまっている。どうすれば川を甦らせることができるだろうか？川は本来どうあるべきか、私達は川とどうつきあっていくべきなのかを考える。

未来の水辺を考えよう

●水21物語委員会では、「雨から海まで、水と川の21世紀」というテーマで、全国から作文、絵、イラスト等のコンテストを行います。より安全でより快適な生活のためどのような水環境がよいのかということで、夢やアイデアを作品にしてみましょう。●応募は、年齢・性別・国籍・職業、個人/グループ問わず、1995年4月1日現在で15才以下はジュニア部門、16才以上は一般部門で受け付けています。会員だけではなくそのご家族、ご近所にも声をかけましょう。●締め切りは、6月30日(当日消印有効)、審査委員長は日下公人(ソフト化経済センター理事長)気になる商品などは「水21物語」大賞(各部門1点)ジュニア:液晶画面付ビデオカメラ、一般:30万円他です(すごい)。審査発表は1995年11月下旬～12月上旬を予定。●応募方法●作文:400字詰め原稿用紙10枚以内(ワープロ可)●絵:イラスト等:B4～B2サイズ(縦横自由)、原稿用紙1枚程度の説明文をつけて下さい。●水辺の会でも応募してみませんか？

●応募・問い合わせ先

建設省北陸地方建設局河川部河川計画課「水21物語」事務局
 〒951新潟市白山浦一丁目425の2 Phone 025-266-1171(代表)
 (文責 杉山 泰彦)

編集後記

「エコノザウルスが行く」展無事終了させていただきました。後援や協賛、ボランティアでお手伝いしていただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。なお、一部の作品は新潟市役所でも4月15日まで展示されます。鹿児島県甲突川では住民の反対運動にも関わらず1994年5月18日の玉江橋に続き、1995年2月17日に高麗橋が撤去されました。もっとじっくり治水や環境を話し合い、私たちの時代だけでなく、私たちの子供や孫の時代にも受け継いでもらう水辺をつくる必要があります。今後、歴史的土木遺産を考えるため、石橋たちの命日をつくってはいかがでしょうか？

★原稿受け付け(移転しました)★

〒950 新潟市河渡2-2-8
 株式会社サザンウインド内 高橋 正良
 Phone 025-271-7515 Fax 025-2271-1884